



文化福祉センター



改築後の王寺町役場



現在の王寺町役場

充実する公共施設

王寺町役場、中央公民館、王寺アリーナなど、まずは人が多く集まる王寺駅の近くに公共施設ができました。そして次第に住宅地開発が町の南の方にも広がり、泉の広場町営プール・公民館、文化福祉センター、菩提キャンプ場など町内全体に公共施設が充実していきました。



泉の広場（現在のいずみスクエア・いずみパークの場所）



通勤客らで混みあう王寺駅

人口増加で進む住宅地開発

王寺小学校の裏山など、比較的容易な場所から始まった住宅地開発は、昭和50年代になると大規模に山を切り開くようになりました。町内各地の開発によって、昭和30（1955）年には9,454人だった王寺町の人口が、35年後の平成2（1990）年には2万3,620人にまで増加しました。



王寺小学校裏山から望む

家々と水田

大阪と奈良をつなぐ玄関口 さらに住みよい王寺町へ

昭和30年代になると、大阪で働くサラリーマンが増えて、王寺町はベッドタウンとして発展してきます。新しく畠田駅ができた、王寺小学校の裏山が住宅地に開発されたりしました。こうして王寺町に住む人がさらに増えていくと、町民がいきいきと暮らせるように、王寺アリーナや健民運動場、泉の広場、文化福祉センターなどの公共施設も多くつくられていきました。



王寺駅【昭和28（1953）年撮影】



畠田駅【昭和41（1966）年撮影】

駅の様子

昔の王寺駅と畠田駅。畠田駅が誕生したのは昭和30（1955）年。当時、周囲は田んぼばかりで、駅舎の灯りだけが畠田の夜を照らしていたといいます。

